

# 札幌新まちづくり計画市民会議 第7回全体会議

## 会 議 録

平成16年10月25日(月)18時00分開会  
札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ

## 1 開 会

事務局（企画部長） 皆様、おばんでございます。

まだお見えでない委員の方もいらっしゃいますが、定刻になりましたので、札幌新まちづくり計画市民会議第7回全体会議を開催させていただきます。

皆様方におかれましては、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

前回の第6回目の全体会議は、ちょうど2カ月前の8月25日に開催いたしまして、重点事業編の案についてご審議いただいたところでございます。その後、9月22日には市民会議でのご意見のほか、パブリックコメント制度による市民意見や議会での議論も参考といたしまして、最終的な計画を公表いたしました。

本日は7回目の市民会議でございますが、今回で予定しておりましたすべての日程が終了いたします。改めまして、今回の計画や市民会議のあり方などにつきましてご意見をいただきたいと存じます。

なお、所用のため欠席される委員の方がいらっしゃいます。

阿部委員、伊藤委員、岩田委員、大坂委員、太田委員、工藤委員、小林委員、林委員が欠席でございます。

それでは、内田座長、よろしく願いいたします。

## 2 議 事

内田座長 それでは、お手元にあります議事次第に沿って議事を進めてまいります。

最初は、札幌新まちづくり計画重点事業編についてであります。

前回の全体会議で事務局の方から案が提出されましたのが、これについて委員の皆様からいろいろなご意見が出されました。とりわけ、多くの委員の方から、事業が細分化されて計画全体のイメージが分かりづらいというご意見があったということをご承知のとおりだと思いますし、私の方からも、縦割りではなくて、担当部局がまとまった形でやれるようなモデルケースがあるといいですねということを事務局の方に振りました。それらの点を踏まえまして、計画案から変更のあったこと、及び、改めて計画案について事務局の方から説明を受けたいと思っております。

きょうは、それを直すということではありませんので、我々の意見を踏まえた上で、最終案はどういう形になったかということについてご了解いただきたいと思っております。その後、ご意見等がありましたら、承りたいと思っております。

それでは、説明をお願いいたします。

札幌新まちづくり計画 重点事業編 説明

事務局（調整課長） それでは、「重点事業編（案）」からの主な変更点についてご説明

いたします。

資料につきましては、資料1の「重点事業編」の「概要版」と、本編であります資料2の速報版です。

まず、「速報版」につきましては、計画の内容としてはこれで確定しております。今後、「ビジョン編」と「重点事業編」が一体となりました計画書の作成を予定しております。そのため、この冊子については「速報版」としてあります。

そこで、資料2「速報版」の90ページをご覧いただきたいと思っております。

「重点事業編(案)」からの変更内容を整理しております。

去る8月3日に、「重点事業編」の案を公表いたしまして、その翌日から30日間、パブリックコメント手続に基づいて意見募集を行いましたところ、40名の方から延べ99件の意見をいただきました。

また、8月25日には、市民会議の全体会議を開催し、委員の皆様からご意見をいただくとともに、8月31日には市議会におきまして説明を行い、また議論をいただいたところでもあります。

これら貴重なご意見を丹念に整理・検討いたしまして、計画に反映できるものにつきましては、極力、計画案の変更を行ったところでもあります。

90ページの表の中には、計画の変更内容を記載しております。

まず、「重点事業編策定の考え方」についてですが、市民会議などを活用した計画の自己点検評価や第三者機関による成果の検証と評価についてのご意見をいただきました。これを踏まえまして、計画の中に、自己評価の実施と外部評価の仕組みを活用していくことを盛り込みました。具体的には、来年度から新しい行政評価制度の導入を予定しております。この中で、自己点検評価として、従来の事業単位での評価に加えて、施策レベルでの評価を行うとともに、外部評価委員会による外部評価も行うこととしております。新まちづくり計画についても、この制度を活用しながら点検・評価を行ってまいりたいと考えております。

また、先ほど内田座長からもお話がありましたように、事業が縦割りとなっているので、全体を考えて組織横断的に取り組む必要があるとのご意見をいただきました。これを踏まえまして、計画の中に、関係部局が連携して横断的に事業を進めていくことを明記するとともに、91ページの1番上にありますように、新たなモデル事業を設定いたしました。これは、清田区に、まちづくりセンターを併設する地区センターを新たに設置するものであります。この施設の検討に当たりましては、区役所やまちづくりセンターのほか、地域のまちづくりの振興や高齢者福祉、子育て支援などの関係部局が連携して、区民自らが考えて地域のニーズを集約するワークショップを開催するなど、地域住民の交流・活動拠点づくりのモデル事業として取り組むこととしております。

また、「計画事業」についての変更点といたしましては、90ページの下の方になりますが、五つの基本目標ごとの計画事業費の合計と個別事業の計画事業費を明示いたしま

した。この事業費は、あくまでも計画策定時における参考値でありまして、今後の予算編成を拘束するものではありませんけれども、事業の規模など事業内容をより分かりやすくするために明記したものでございます。

さらに、防犯対策について積極的に取り組むべきとの意見を踏まえまして、防犯を含む安心・安全なまちづくりの施策展開に向けた調査などを内容とする事業を新たに追加いたしました。

このほか、92ページに記載しておりますように、事業をより分かりやすくするために、事業内容の記述の追加などを行うとともに、カタカナ語についても、できる限り、日本語の併記や言い換えをしております。

なお、パブリックコメントで寄せられた意見の概要とこれに対する市の考え方につきましては、93ページ以降に記載しております。

以上で、「重点事業編(案)」からの主な変更点についてのご説明を終わらせていただきます。

#### 札幌新まちづくり計画 重点事業編について、意見・感想など

内田座長 どうもありがとうございました。

これについては、基本的には前回の会議で終わっておりますので、パブリックコメント等を受けて変更した点についてご説明いただきました。

このことについて、何かございますか。

もしよろしければ、これも含めてで結構ですけれども、その他として、きょうは最後の会議になりますので、皆様からご発言をいただきたいと思います。

約1年間、会議があったわけですけれども、今回のまちづくり計画そのもの、それから、市民参加型の会議ということで、すごい人数の公募の中から市民会議をセッティングしたというのは新しいやり方だと思います。今後もこういうやり方を続けていかざるを得ないと思いますし、続けていくべきだと思います。そういうときに、こういう点を改良してほしいとか、この会議のありようについてでも結構ですし、今回、まちづくり計画はこういう形で決まりますが、今後の計画についてのご意見でも結構です。会議自体はこれで終わりますので、日ごろ、いろいろお考えになっておられることをご発言いただいて、会議を終わりたいと思います。

ご自由にご発言をお願いいたします。

白井委員 ただいま、パブリックコメントを受けて変更した内容についてお話がありましたが、その中で、評価については外部評価を入れるということがありました。

評価のことですけれども、今回、評価の客観的な基準ということで、到達目標ということをしてできるだけ客観的な数値目標という形で出すということをしております。実際、

特に外部の方が評価するとなりますと、ますます透明性が高い客観的な指標ということが強調されることになるとと思いますが、そのプラス面は分かるのですが、潜在的なデメリットというか、マイナス面についても考える必要があるのではないかと思います。

例えば、ある事業の実績を出す場合、何人参加したかというようにニーズで行ってしまうと、動員主義になってしまうことありますが、実際にニーズとして表れなくても、質的な面での現象の見とりということも考えていただければと思います。例えば、参加人数が目標に達しなくても、実際に参加しなかった人はどんな理由で参加しなかったかということはきちっと調べておく必要があると思います。あるいは、参加した人は具体的にどういうメリットを受けたのか、その受けたメリットをどういう形で地域の人と共有していくことができるのかと。そういう意味では、客観的な数値ということをやめて、もう少し柔らかく評価するようなシステムを考えていただければというふうに感じました。

内田座長 ありがとうございます。

田村委員、お願いします。

田村委員 私も評価についてです。

私は、外部評価でも、どんな形であっても、動員人数ということがあっても、やむを得ないと思いながら今のご意見を聞いていました。

私も委員として参加させていただいて、こういう計画ができ上がって、ある程度責任を持たなくてはならない部分もあると思いますので、できれば、パブリックコメントの中にありましたが、公募市民も入った第三者機関で行うというやり方が一番いいと思いますし、その中に今回の委員が若干入るといのもいいのかなと思いました。

以上です。

内田座長 ありがとうございます。

中井委員、お願いします。

中井委員 これだけの皆さんが参加して新しいまちづくり計画ができたわけですが、そういう評価はとても大事だと思います。ただ、先ほど臼井委員がおっしゃいましたが、評価は本当に難しいのです。特に、景観評価というのはものすごく難しく、逆に数値化できないものに魅力があるのです。審美性とか限界性とか快適性とか、そういうものに対して客観的な評価を下すのは本当に難しいことなのです。

数値については、今回、数値がパーセントでたくさん挙がっていますが、これを全部クリアしたらいいまちになるかということ、それはなってみなければ分かりません。それは、その時点で考えればいいことかもしれませんが、評価というのは、まだ我々もやり方を考えている段階なので、かなり柔軟な形の評価が望ましいと思います。

ただ、このようにいろいろな方が参加されて、行政の方も参加しながらまちづくりの計画が決まっていったということは、画期的なことですし、今後、さまざまな領域にお

いてで計画とか事業を始めていくときのやり方の一つになっていくのではないかと考えています。

内田座長 ありがとうございます。

中島委員、35ページに、観光コンベンション部で、映像を活用したまちの魅力発信事業ということで500万円ほど出ています。別にこれに関連しなくても結構ですが、この1年間を振り返って、ご発言をいただければと思います。

中島委員 常々言っていることと同じようなことになるかもしれませんが、今回も、清田区の地区センターのモデル事業がありましたが、これ自体は市の方でお考えになっていて、前回の会議が終わった後に、何人かが、「何か、おもしろくない」というような状態で飲んだのです。そうしたら、みんなで、もう少しつくく粘ってみたいという話になって、何人かでやったのですが、そのときのポイントとしては、市民に目立ってほしいということなのです。

今回の三つの会議も、せっかく市民参加の会議だったのに、結局、1年間やってみて、僕らはよく分かっているのですけれども、市民全体がこれをどのような形で考えているのか、ないしは、市民参加だということを感じて考えていただいたのか。やはり、その知らせ方は、はっきり言えば宣伝なので、市の広報として宣伝力をどうやって高めるかということが必要だと思います。

そのためには、僕はモデル事業ということでアドバルーンをどんと上げて、これをやるぞと、新聞に小さく載るのではなくて、社会面の一番大きいところにボンと出させていただくとか、そうすれば、これはすごいことだぞという感じになっていくと思うのです。やはり、そういうパフォーマンスが必要だと思っているので、その結果として、そうなのか、市民としていろいろな形のかかわりができるのだな、ごく一部の人たちがかかわっているのではなく、いろいろな人がかかわることができるのだなと思っていただくのが最大の目的だと私は思っています。それぞれの専門分野はある意味でお任せですが、今回、1年間にわたって三つの市民参加の会議があったと思いますが、この最大の成果は、いろいろな市民が、市政に興味を持ち、自分たちの問題だと思って、それではまた機会があればいろいろなことにかかわろうと、そういう形につながっていくことが最大の結果なのではないかと思っています。

先ほどから臼井委員や中井委員がおっしゃっているように、市の事業評価ではなくて、市民がこういうことに対してどれだけ反応が出たのかという方が私は関心があります。

内田座長 ありがとうございます。

平本委員、お願いします。

平本委員 重点事業編については、前回の会議を踏まえて、我々の意見を多少なりとも反映して変更されているのだろうと感じております。

市民会議のあり方については、私はこういう形でメンバーになるのは初めてだったのですけれども、二つほど印象深いことがあります。

一つは、特に、公募委員の皆様方の問題意識が非常に明確で、なおかつ、日ごろの不満をぶちまけるということではなくて、皆さん、お仕事なり活動なりを通して持っている問題意識をどういう形で解消していいまちをつくっていかうかと非常に真剣にお考えになっているなと感じました。そういう方々とこの場で一緒に勉強できたということは、私にとっては非常にありがたかったです。

二つ目は、このメンバーは、この場で初めてお会いになった方が多いと思いますけれども、市民会議とはまた別の場ができて、新しいネットワークが構築されているように思います。特に、田村委員や中島委員のように、ネットワークerといえますか、ネットワーキングが非常に上手な方がたくさんいらっしゃったということも大きいと思いますが、そういう形でネットワークができていったのはすばらしいなと感じました。そのように、目に見えない副次的な効果が市民会議にあるのだということを目の当たりにすることができましたし、こういう形での計画づくりというのは一定の意味を持つのだということを改めて認識しました。

以上、2点の感想を申し上げたいと思います。

内田座長 後者は、人選というところが大きいですね。

荒委員、お願いいたします。

荒委員 何もお手伝いできなくて恥ずかしく思っています。私は、商工会議所から参りましたけれども、私自身、ある面では非常に勉強になったとつくづく感じております。

話が変わりますが、今回の新潟の地震、その前の台風と、ことしは本当に強い台風の当たり年で、北海道にも大きな台風がやってきました。今、200万都市札幌の新しいまちづくりの基本計画をつくるためにいろいろな意見を出し合っておりますが、もし札幌に大きな地震や台風が来てパニック状態になったときに、行政も含めて、一般市民はどのような形で動き出すのだろうかとは私は思っているのです。新しいまちづくりというのは、市民一人一人がボランティアで率先して前面に出て、何かあってもお互いに助け合うというのが基本的な形ではないかと思っております。

札幌にも、いろいろなボランティアをやっている方がおりますが、200万都市としての新しいボランティアのネットワークをこれから確立しなければならないのではないかと感じております。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

飯塚委員、お願いします。

飯塚委員 ほぼ1年、この会議に参加させていただいて、いろいろな方にお目にかかれまして、私個人としては大変勉強になりました。

私は、この会議と並行して、行政にかかわる会議に参加させていただく機会を得ました。一つは、豊水小学校の跡施設利用の会議です。もう一つは、私が住んでおります西区八軒に新しく区民センターをつくるということで、その会議に参加させていただきま

した。

それで、市民がかかわって行政とお話をさせていただきながら進める場合、どんな規模で、どういうテーマ設定でやっていけば最も実を上げられるのかなと考えておりました。例えば、豊水小学校とか、八軒にできる新しい建物とか、具体的な事柄があれば、どんどん意見も出るし、話の方向性も見えてきます。この会議では、幾つかの分科会に分かれましたけれども、その中で核として何を語ったらいいかということがなかなか見えにくかったかなという感じがしています。このように市民が参加する場合、どういう設定で場を持つかということは大きな問題だと思いました。

それから、話し合われたことを取りまとめていくプロセスというか、どういう言葉でそれをまとめていくのか。今回は、私どもが話したことを、録音をとって、それをコンサルの方がまとめて、行政とつないでという形をとったと思います。別の会議では、直接、私どもが文章をつくるまでやりましょうということで、ワーキンググループをつくって延々とやりました。それは、行政の方にとっては、いろいろ不備のあるものだったと思いますが、私どもとしては、自分たちの考えていることはこれだというふうにまとめやすかった部分もあります。ただ、これだけの大規模のものを言葉としてまとめるのは大変な作業なので、その辺はどうしたら一番いいのかなと考えさせられました。

それから、今後、この計画がどのようになっていくのかを私たち自身が継続して見ていく仕組みが何かあるだろうかということも考えました。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

大沼委員、お願いします。

大沼委員 これは、最初からのテーマかもしれませんが、行政と議会と市民会議のそれぞれの持ち分がよくわからない部分がありました。逆に言えば、市民会議で頑張って何かをとということもありましたが、そのことがすごく気になりました。

議会にしる、行政にしる、市民の意見をどういうふうに反映していくかということで、それぞれ持ち場があると思いますが、市民会議の中でそれがどういうふうに反映されるかということがすごく大事なのではないかという感じがしました。

例えば、今回は、スポーツの分野が出ていまして、F I S のノルディックスキー選手権で53億円くらい予定されていますが、これは、行政の方で規定されたというか、こちらでどう言っても変わらないと思うのです。それから、いろいろな事業がたくさん並んでいますが、あらかじめ想定されているところに対して、市民会議の意見はどうなるのかとか、意思決定に対してどういう経路があるのかということところはちょっと不明確な気がしました。それでも、それぞれの分野の課題はあるにせよ、こういった市民会議の中で、どの範囲でどういう意思を決定していくかということがすごく大事だと思います。

そのための最初の設定が一番難しかったと思いますが、それを関係なしに、会議の中で委員の方々といろいろな議論ができたことは財産だと思いますし、問題の範囲がどれ



くらいまで広がるのかということについても非常に勉強させていただきました。

以上です。

内田座長 ありがとうございます。

黒田委員、お願いします。

黒田委員 今、私の地域で取り組んでいることを3点ばかりお話しさせていただきたいと思います。

私は、町内会の加入率が非常に少ないということについて、以前から仲間と話しておりました。ただ、町内会の役員だけが集まってもなかなか前に進まないのので、チラシをつくりまして、何月何日の何時からどこでどういうことをやるということで投げ込みをしました。そして、時間帯はいつごろがいいですかということで3段階くらいに分けて、集まりやすい時間が決まりましたので、そこで、自分たちの住むまちは自分たちで守り育てようということを皆さんと話し合いました。

その際に、まちづくりセンターなどを利用させてもらうのもいいのですが、今は核家族化で人が少ないので、そういうところに集まって、お茶を飲みながらやるのもいいのではないかという話が出ました。

そうしたら、第1回のときは、若い人も含めて30人くらい来ました。その中で、私はまちづくり市民会議のこともお話しさせていただきました。もちろん、町内会の役員の方も来ていただきました。

その中で、ほかでもやっていますけれども、空き店舗を利用して、まちづくりにかかわっている団体の人とか、行政のサークルとか、そういう人たちにも来てもらって、そこでやろうということになりまして、来月、空き店舗において、サロンのようなものも含めて動いていく予定です。

今、新潟が地震で大変ですけれども、来年の5月くらいに、まだ名称は決まっていますが、発寒レスキュー隊をつくろうと考えております。災害のときは、助けを待っているだけではなくて、地域にはどういう人が住んでいるかということが把握できていますから、一人で動けない方のところにすぐに行くようなレスキュー隊をつくろうと思っております。まして、冬であれば、体育館とか学校に行くにしても、車が動けないので、ちょっとしたそりをつくって、それに乗ってみんなで移動しよう。これは、自分たちができることからやろうということで、今、どうすればよりよいものになるかということをおみんなで考えております。

以上です。

内田座長 ありがとうございます。

柴川委員、お願いします。

柴川委員 最後ということで、大変ご苦勞をされた市職員の方々と委員の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。この1年間、本当にお世話になりました。

私も、市民会議には、とても大事なものとして出席させていただいて、一度だけ遅刻

しましたが、あとは全部出席させていただきました。

最初は、私は思い違いをしていたのではないかと思います。公募委員ということで、委員に応募するときに作文を書いて出したのですが、その意見が受け入れられたので公募委員になったのかなと思っていたのです。自分はこれを言いたいということを書きましたので、それを貫き通していくのがいいのだという思い違いをしていて、ちょっとずれがあったかもしれませんが、今になって、もう一回出発点に立ったような思いであります。

そして、願っていることは今も同じです。これから粘り強く、忍耐強く、一回一回の活動を大切にしていきたいと思っておりますけれども、それは、冬でも遊べるバリアフリー公園と、その横のコミュニティーハウスです。障がいや年齢を越えていろいろな人が集まって交流することによって、今起きている子育ての問題や、児童虐待の問題や、高齢者の問題や、障がい者の差別の問題などを予防することができるのではないかと、それは、今も変わらず思っております。

この間の土曜日にも、午前中は乳幼児親子と中学生の交流会がありまして、午後からは、車いすや点字の体験、それから、YOSAKOIをやったり、手話で歌ったり、いろいろな活動があったのですが、その中で、この子たちにもっといろいろな働きかけをしたら、もっといいものが出てくるかもしれないと思ったのです。本当にいつもやんちゃな小学生たちが、車いす体験をすることによって、車いすの方が入り口から入ってくる時に、声をかけたり、雑巾を持ってきてもらうのを頼んだり、いろいろな助けを求めたのを見まして、そうだったのかと気がつきました。障がいのない子どもたちが体験をすることにより、その子どもたちが核になって輪が広がるのではないかと考えたのです。

これからは、高齢者の人にももっともっと来てほしいと思っています。今、がんの治療が終わった高齢者が何人かいらっしゃるのですけれども、その方々が公園の周りを散歩して歩行訓練していらっしゃるのですね。そして、いろいろ声をかけたりしているのです。ですから、こういう方たちにとっても来やすい場所にしたいですし、あの人のためにも、この人のためにもと思いながら、またいろいろ活動を広げていきたいと思いません。きょうは、また新しい出発点だと思っております。

本当に1年間お世話になったことを感謝いたします。

内田座長 柴川委員から私の方にお話がありまして、自分が活動していることを皆さん方に見ていただきたいということで、きょうはビデオを持ってきていただきました。杉森委員と燕委員のご発言が終わった後に見ていただこうと思います。

これは、私の判断で決めさせていただきました。

それでは、杉森委員、お願いします。

杉森委員 ここに1年間参加させていただきまして、いろいろなことを勉強させていただきました。感謝しております。

とてもよく分かったことは、自分が一番頑張らなければ札幌のまちはできないなということ。一人一人がしっかり頑張ることで札幌のまちをつくっていけるのだなと思いました。

今やっていることが広報誌に載っていますが、やはりこんなことで落ち着くのかということ、私の周りにいる何人かの方が言いました。先ほど中島委員がおっしゃったように、一般の方には見えていないというところがとても大きいと思います。これから何をしようとしているのかよく見えないというのが一般的な意見なのです。

私は、そういうことではないのだということ、いろいろな資料を見せるのですが、よく見えないということですので、もう少し大々的に打ち出してもいいのかなと思います。

それから、先ほどから評価という言葉が出ております。これは3年の計画でやるのですが、3年後にどうなっているか、私はとても楽しみにしています。今、ここに出ていることがストレートに私たち札幌市民にとってプラスになるかどうかはわかりませんが、悪くはならないだろうと思っています。これが本当にいいように動いて、札幌のまちが活性化されれば、それに越したことはないと思っています。

できれば、今、目の前にいる不登校とか引きこもりの子どもたちの状況がもっとよくなってくれればいいなと思っています。学校とか行政とかいろいろなところがもっと責任を果たしてくれたら、私たちにとってもうれしいことかなと思います。

3年後に、もう一度皆さんにお会いできたらうれしいなと思っております。

内田座長 燕委員、お願いします。

燕委員 1年間、ご苦労さまでした。

私は、大沼委員と飯塚委員と同じ意見を持っていて、この市民会議と関係部局と議会はどういう関連にあるのかがわからないまま突入して、自分たちでできるのだなという大きな期待を持って入りました。そして、ビジョン編のところでは意見は反映されていたと思いますが、飯塚委員がおっしゃったように、まとめる段階で自分たちの考えとか離れてしまいました。

どうしてかなと思うのですが、今振り返ってみると、重点事業編で出たもののほとんどを知らないまま分科会で話し合われていたのです。最初からこういうものがあるのだったら、どうして行政の方は教えてくれなかったのかなと思います。ですから、市民委員だけでやるというのはどうなのかなと。行政も同じ立場で入って、例えば懸案事項としてこういうものがあるというものを提示していただきながら、市民会議の中でスクラップ・アンド・ビルドで話し合われていたら、出てきた重点事業編はこんなにかき離れたものにはならなかったのではないかなと思っています。

ですから、この会議において、行政の方は、質問には答えるけれども、市民委員とともにちゃんとした意見を言い合っていないのです。この分科会の形式だと、やるだけ疲れてしまったなと思っています。私の力不足もあったとすごく反省していますが、今後やるとしたら、行政の方が持っているネタもちゃんと披露して、市民会議がひとり歩き

しないように、現実に即した計画をつくった上で重点事業編に反映していけたらなと思っております。

そして、重点事業編については、反省のところにもあってよかったと思いますが、やはり縦割りなのです。例えば、私が、「障がいのある人も」と言いますと、各分科会に共通してしまって、私一人にはいろいろな分科会でいろいろな意見を言う能力もありません。

障がい者のところで言えば、就労というすごく大きな問題もありますし、教育についても根底に流れる大きな問題があるにもかかわらず、私はとてもそこまでできませんでした。やはり、分科会の設定の中で、あらかじめ、どういう人たちを入れるべきかということがわかったら、各分科会の中に、マイノリティーの方の問題をしっかりと入れていかなければならないと思います。それがいい中で議論をすると、どうしても片手落ちになりますので、今後やるときは、そのようにしてほしいと思います。

それから、これは最初から言ってましたが、共通のテーマを各分科会でどうするのかということについて、結局、どうしたらよかったのだろうかで終わってしまいました。これについても、今度やるときには、共通の場を設けてもらわなければだめだと思います。それは、市民会議自体が縦割りだったからしょうがないのかもしれない。

それから、私は、分科会の中で、地域の老人も、子どもも、子育てに悩む親も、障がい者も相談できて、支援してくれるものが欲しいと言ったのですが、縦割りになってくると、計画の段階では影も形もない重点事業編になってしまいました。

今、地域が、まちづくりセンターとか、各区ごとに圏域が決まっています。障がい者の方は4圏域と言われていますが、各区ごとに圏域が考えられたのであれば、各区の最寄りの場所に、共通する課題、近くに相談を受けて支援してくれる人がほしいという課題については、関係部局が横断的に考えなければいけなかったはずなのに、それが考えられませんでした。今後は、そうやっていただけることを望んでおります。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、ここで、柴川委員がご用意されたビデオをごらんいただきたいと思います。

#### 【ビデオ上映】

内田座長 どうもありがとうございました。

今のビデオ自体にコメントがいっぱいあると思いますが、きょうの会議に戻りたいと思います。

杉岡副座長、お願いします。

杉岡副座長 今回の柴川委員の長年にわたる取り組みにも象徴されますけれども、まちづくりというのはものすごく時間のかかることですし、誰かがやろうとしなければなかな

が進みません。多分、柴川さんも20年以上はかかっていると思いますが、こういう活動が広がっていくことになれば、今の形の中では5年とか10年に一つずつくらいしかできないようなものですが、もう少し仕組みを考えることによって、もっといろいろな推進策ができるのではないかと思います。

私は、公募委員の方が果たす大きな役割というのは、具体的な実践をいろいろな人に知ってもらい、かつ、行政ではなかなかできないことをいろいろな形で進めているということ、施策的な必要性としてどう受けとめて具体化していけるのかということだと思っております。

私も、実際にはまとめることに関しては大変な経験もしましたが、行政の関係者も、この計画をまとめるだけでも膨大なエネルギーを使ったと思います。ですから、大変な疲労感もあったと思いますが、いろいろな発言と意見の重なり合いの中で、とりあえず、縦割りではあるけれども、ほぼ満遍なく穴埋めができるような形につながったと思います。そういう意味で、重点事業編を何らかの形で作り上げたというのは、このまちづくり会議の大きな成果だったと思いますが、縦割りのままこれを進めていくということになると、毎年のようにこういう会議をやらなければなりませんので、もう少し違う仕組みを考えていく必要があると思います。

この会議のもう一つ先として、他の市町村では取り組みを始められていますが、市民自身が提案をして事業を進めて、それに予算づけが行われるという市民事業の予算化、そういうものがまちづくりの中のパートとして動き始めると、相当大きなエネルギーをつくり出せるのではないかと思います。

柴川さんはこだわった発言が多かったですけれども、柴川委員の執念も柴川委員の実践は広く知られていますが、札幌市民に余り知られていないということがありますけれども、私たちも身の回りの貴重な実践にもっと目を向けるようになるきっかけになったのではないかと思います。

ぜひ、新しい発展系のまちづくり会議の進め方については、今後、検討していく機会があればいいのではないかと考えています。

内田座長 ありがとうございます。

それでは、高田副座長、お願いします。

高田副座長 柴川さんのビデオを拝見しまして、まず感じたことは、柴川さんの優しさとおっしゃるか、コーディネーターとしてのリーダーシップとおっしゃるか、先ほど杉岡先生がおっしゃっていらした執念とおっしゃるか、今まで積み上げてこられたご苦労が感じられ、本当に理想像であり、それを現実になさったのはすごいことだと思っています。それは、柴川さんというお人柄だから成し得たのだと思います。

人の大切さについては、このまちづくり会議の中でも、いろいろな方がいろいろなご意見をおっしゃって、私も誇大妄想的なことを申し上げたりいたしましたけれども、人が夢を語り、それを現実にするには、またそこに寄り添う人たちがいなければいけない

のだなということを感じました。

白井委員が外部評価とおっしゃいましたが、外部評価をする人はどういう方がなさるかということも一つ問題だと思います。

私は、きょうの1時半から西区の福祉のまちづくり活動交換会に行ってきました。西区の地域の人たちや、連合町内会のまちづくりをされている人たちが集まって、夢を語り、現実にしていくという会でした。ただ、それは役員になっている人たちは分かっておりますけれども、それを一般的にどう伝えていくかだと思うのです。これを活動、実践に移していくとなると、中島さんがおっしゃったように、宣伝と申しますか、画期的な構想で皆さんにPRしていく必要があると思うのです。ですから、186万の人たちがどう評価していくかということになるのではないかと私は思っております。

ハードな部分は数値として見えますけれども、心の問題になりますと、ボランティアの人達がどれだけ活動するかということは、市民の意識改革に尽きるわけです。

私たちは1年かけて計画策定に携わらせていただきましたけれども、これを実践、活動に移すとなると、3年の計画の中で示されていくのは非常に難しいなと思っております。

先ほど来、町内会とか地域づくりということではいろいろご意見が出ておりましたが、拠点づくりということが大事になってくるのではないかと思います。それには、お金もかかりますので、3年の中ではできっこないというふうになりましようけれども、市民が活動し実践するためには拠点づくりなるものが必要だということを私はつくづく感じております。

私自身、計画倒れに終わるのではなくて 私は保育園に何回かお手伝いに行っております。カレーパーティーとか、運動会とか、そのたびに手伝いに行ったり、学校にも行ったり、相当忙しいスケジュールでやっておりますが、それをするには、私一人が動いているのではなくて、旋風を巻き起こしていかなければいけないと思っております。それをどういう形でするかということは、これからの一番の問題ではないかと思っております。

計画はやさしいと思います。1年かかっても計画はやさしいと思いますが、3年間の中での実践というのは本当に難しいのではないかと思っております。

ですから、人を育てることが一番大切なことであり、拠点づくりということになるかと思えます。

また、違った面で申し上げますと、私は都市農業の方にも参加させていただいております。それから、私は藻岩山にこだわっておりますけれども、この間、藻岩山の魅力を考えるというセミナーにも出席いたしまして、私なりにとても喜んでおりますし、少しでもお役に立てばと思っております。

本当にありがとうございました。

内田座長 ありがとうございました。

ひととおりご意見をいただきました。

座長としての役割を余り果たせませんでしたけれども、私も少し感想を述べさせていただきます。

まず最初に、公募委員の方々はほとんど同じようなご感想でしたので、市側にとっては非常にいい学習効果になったと思います。ただ、一つ言えることは、非常にたくさんの公募の中から市側がこのメンバーを選んだということは、すごく積極的に評価すべきだと思っております。つまり、非常に客観的に、意見を言っていただけの人を選んでおります。市にとっては耳が痛いかもしれませんが、最初の一步として、非常にいい公募委員の選定をし、いいプロセスをつくらうとしたということは評価できると私は判断しております。

この計画自体に反映されるされないという意味では、一つの制約があったのは事実です。それは、更地の上に我々が計画をつくるわけではなかったもので、やはり問題があったと思います。そこに参加して、いかにもできるようにするというのは市側の欺瞞ではないかと思えます。そういうプロセスがあることはありますけれども、一つ、これからの計画づくりには非常に大きな参考になったと思います。

もう一つ、これはここだけのことではありませんが、国にしる、地方にしる、最大公約数的な政策目標がなくなってきました。つまり、最大公約数で政策目標を立てることができなくなってきたという問題があると思えます。したがって、いろいろな意見が出ました。シングルイシューに関しては非常にはっきりとした形でみんなが意見を言えますけれども、もう少し最大公約数的に、今まで行政は、いろいろな意見の中から最大公約数的に拾う形でやってきましたが、これだけの人の多様化　この一言で言うのは余りにも陳腐ですけれども、そういう中で難しくなっています。

それではどうなるかという、今までの行政は、政策目標を最大公約数的に定めたら、いかに効率よくその政策を実施するかということがポイントでした。ところが、政策目標そのものを設定できなくなると、特に地域の場合はそうですけれども、これからは政策をつくっていくプロセスの方が大事になるのです。これは、その最初のステップだというふうに私は個人的に理解しています。

このプロセス自体は手段ですけれども、プロセス自体が目的になっていくのです。つまり、最初に中島委員がおっしゃったことに尽きるのですけれども、みんなが参加してつくっていくというプロセスでは、いろいろな人がいろいろな意見を持っていますから、うまくいくことはほとんどありませんが、その中に参画しているという意識を持つことによって、まちづくりが確実に進んでいくわけです。そういうものをつくっていくとか、そういう場を非常に多くつくっていくことは、特に地域の場合は可能ですから、そういう形でやっていく必要があるのかなと思いました。

いずれにしても、非常に活発なご意見がたくさん出ましたので、私としては非常にありがたかったです。時間を超過することもしょっちゅうありましたし、けんかもどきも

ありましたが、私としてはそういう方がやりやすかったので、非常に感謝しております。

まとめになりませんが、皆さんからひとつお意見をいただきました。

中島委員 一つだけいいでしょうか。

内田座長 どうぞ。

中島委員 先ほどビデオを見ながら思いつきまして、このモデル事業になった清田区地区センターについて簡単な提案をしたいのですが、そのために質問をさせてください。

これは横断型なので、どこの部局が全部に参加するのかということと、日程的にどれくらいでできるのかということをお聞きしたいのです。

事務局（企画調整担当係長） モデル事業についてですが、まず、日程につきましては、10月1日からワークショップのメンバーを公募しております。こちらは、定員が30名ということで、22日まで募集をかけております。そして、メンバーが決まりましたら、今年度中に3回ワークショップを行うことになっておりまして、来年度についてもさらに3回行います。

今年度におきましては、やモデル的な取り組みを進めていく上で地域住民のアイデアを取り入れるという形で、いろいろ議論をしていただいて、提案をいただきたいと考えております。来年度は、施設をつくるに当たっての具体的な検討に入っていく予定です。

施設自体につきましては、今のところ、19年度中に完成する予定となっております。

そのワークショップの中には関係部局が入っていきますが、具体的にどの部局が入っていくかは決定しておりません。今、想定しているのは、区役所につきましては地域振興課というところが窓口になっていますけれども、それにプラスして、まちづくりセンター、それから本庁部局では統括している地域振興部が入ります。さらに、我々企画部、あるいは、高齢者の関係、子育て支援、健康づくりというふうに想定しておりますが、どこまで入るかは、ワークショップのメンバーが確定して、具体的にどういうプロセスで進めていくかということが決まってから、庁内の部局についても具体的に検討していきたいと考えております。

中島委員 もう進んでいるということなので間に合いませんが、今のビデオを見ていて思いついたことがあります。先ほど座長が言っていただきましたけれども、札幌市のフィルムコミッションのショートストーリー制作に500万円出ているので、市の広報に、実際のワークショップから始まっていくモデル事業をぜひ記録したいと思うのです。それを、ぜひこういう若手のところにリンクさせてとれないかなと考えております。これは目的としているものが違いますが、ワークショップの過程をびっちり密着して、できるまでを追って、それを貴重なものにしたいと思ったのです。せっかくのモデル事業ですから、何とかそれくらいのものでできないかなと思うのです。

これは、制作費自体はそれほどかかりません。計画によりませんが、50万から100万くらいで1年半分くらいのは出ると思います。それはICCのメンバーといろいろ話してみなければわかりませんが、本とか紙の記録ではなくて、映像による記



録の方が後々生きると直観的に思いましたので、何とかならないものかということで提案させていただきました。

それから、マスコミへの売り込みは私が勝手にやってしまいたいと思っています。北海道新聞などに、こういう情報を積極的に流しておきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

内田座長 それについては、市側と後で調整してください。

どうぞ。

燕委員 ここでも障がい者福祉が欠けてしまっているのです。ですから、交流活動拠点のモデルとしては、むくどりの柴川さんが先駆者でありますので、ぜひ公募委員の中に意見をいただく立場として柴川さんのような方に入っていていただいて、案をもらうというのがいいと思います。

そして、こういうところで必ず障がい者が抜けるのです。ですから、ぜひ障がい者福祉も入れて、まちづくりセンターを考えてほしいと思います。

内田座長 映像にするのは後でご相談願いますけれども、今の柴川委員をこのメンバーにということは、この市民会議の中からお願いするという形をとっていいと思います。

不可能ですか。

それは、柴川委員の承諾を得なければなりません。今、強制的に入れという必要はないので、後で聞いてください。それでも、燕委員個人の意見ではなくて、市民会議として推させていただきますということを頭に入れておいてください。

事務局(企画調整担当係長) メンバーの選定自体は既に手続きが済んでいますけれども、市民会議からそういう意見があったということは伝えさせていただきます。また、柴川さんの取り組みなども、今後、進めていく中で参考とするように伝えておきたいと思えます。

内田座長 まだいろいろなご意見があると思いますが、後の懇親会でお話し願うことにしまして、この会はそろそろ締めたいと思います。

閉会に当たって、事務局の方から何かございますか。

### 3 閉会あいさつ

事務局(企画部長) 本日までのご審議、本当にありがとうございました。

事務局(企画部長) 最後になりますが、札幌市を代表いたしまして、福迫副市長からお礼のごあいさつを申し上げたいと存じます。

福迫副市長 札幌市の福迫でございます。

札幌市を代表しまして、委員の皆様方に一言お礼を申し上げさせていただきますと思います。

札幌新まちづくり計画市民会議の委員の皆様方には、この計画の策定に向けまして、市民議論の中心的な役割をお引き受けいただきました。1年間にわたり、いろいろな角度からご検討をいただきましたことに、心からお礼を申し上げたいと思います。

この1年の間、委員の皆様方には、きょうの会議を含めまして、全体会議で7回、4つの分科会を17回ということで、計24回にわたる会議を開催していただきました。きょうも含めまして、本当に熱心なご審議をいただいてまいりました。

この市民会議は、市民自治が息づくまちづくりという上田市長の考えのもとに、まちづくりの実施計画としては初めてとなりますが、計画の策定過程に市民委員に参加していただく会議ということで設定をさせていただきました。公募委員には122名の応募がありましたけれども、その中から、ここにおられる方々に委員として参加をいただいたわけであります。したがって、市民の皆様方からも大変注目されたということと、一つの市民参加のモデルケースとして位置づけられる会議になったと私どもは認識しております。

また、提言をいただくまでに5カ月という限られた期間の中で、私どもも、会議の進め方や意見の取りまとめなどいろいろな面で試行錯誤をしましたが、委員の皆様も、そういうお立場でありながらご議論をいただいて、ご負担は大変大きかったのではないかと拝察する次第であります。

この市民会議の大役をお務めいただきました内田座長、また会議を支えていただきました高田副座長、杉岡副座長、また分科会の取りまとめなどに非常にご尽力をいただきました小林会長、臼井会長を始め、各委員の皆様方には、改めて、心から深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

委員の皆様からいただきました貴重な提言を踏まえまして、5月にはビジョン編を、9月には重点事業編を策定させていただきました。計画には、都心にぎわいづくり事業、舞台芸術創作事業支援事業、さらには都市景観重要建築物等の保存事業、あるいは区民とつくる地区センターモデル事業、これについては先ほどいろいろなご提言、ご意見がありました。今後、市民の視点から見て、力を入れて取り組んでいく必要がある事業が数多く盛り込まれております。

これらの事業は、委員の皆様方の貴重なご意見が一つの形になったものと私自身も考えております。

新まちづくり計画は、上田市長が掲げておりますまちづくりの目標、市民の力みなぎる文化と誇りあふれるまちの実現を目指し、市民自治推進プラン、市役所改革プランとあわせて取り組んでいこうとしております。今後、これらの計画に基づきまして、いよいよ元気あふれる札幌のまちづくりが本格化していくことになるわけであります。

しかし、最も大切なことは、その成果を市民の皆様方が実感していただけるかどうかだと思います。先ほど来、お話が出ておりますが、その成果を市民の皆様方に実感していただけるよう、私どもは努力していかなければならないと思っております。

最後になりますが、委員の皆様方には、これからの計画の推進に当たりまして、いろいろな立場でご指導、お力添えをいただきたいと思っております。

改めまして、1年間にわたりますさまざまなご尽力に対しまして、心からお礼を申し上げるとともに、さらにお願ひ申し上げて、ごあいさつとさせていただきます。

1年間、誠にありがとうございました。

#### 4 閉 会

内田座長 それでは、これで終了させていただきたいと思ひます。

私自身、拙い議事進行でご迷惑をおかけしましたけれども、委員の皆様のご協力でここまでこぎつけました。

どうもありがとうございました。

以 上